





ボクがいい子に育つように、  
パパとママは「はぐみ」にしたんだって。



## 第3回 キッズデザイン賞受賞

おかげさまで大好評の  
『SINCÉ HUGMI  
(シンセ・はぐみ)』が  
キッズデザイン賞を  
受賞しました。



SINCÉ HUGMI



(人生をごいっしょに。)  
Sincerely for You



早野グループ

**トヨタホーム山梨株式会社**  
(社)山梨県宅地建物取引業協会会員・宅建免許証番号 山梨県知事(1)-2223号

お問い合わせ・ご相談は

本社・本社展示場  
昭和三井公園展示場  
甲府東住宅公園展示場

〒409-3851 中巨摩郡昭和町西1043  
〒409-3866 中巨摩郡昭和町西条140  
〒400-0812 甲府市和戸町976

(昭和バイパス、流通センター前交差点からすぐ)  
(昭和バイパス、西条交差点からすぐ)  
(和戸通り沿い、山梨中央銀行からすぐ)

TEL 055-275-1234  
TEL 055-275-8551  
TEL 055-220-1170



書家 書楽会アズール主宰

## 島崎 ふみさん

1970年東京学芸大学書道科卒業  
『山崎方代全歌集』の年譜執筆  
方代短歌を視覚化し、4回の個展を開催  
11月には第5回となる個展を甲府で開催予定 東京都在住

# 山梨の歌人・山崎方代を視覚化 歌を読み解き「書」の世界を拓く

「書」への新たな試み  
歌のこころを源泉として

書家・島崎ふみさんは、歌人・山崎方代の作品をテーマに、これまで4回の個展を開催し、今秋11月には第5回となる個展を、方代の出身地山梨で初開催する。ひとつの達成であり、周囲の期待も大きい。

方代の歌と向かい合うことで、書の新しい世界を拓いてきた。方代を「師ともいえる存在」と尊敬し、その書家としての道筋も、「放浪の歌

人」といわれる方代と同様に、多難であり、独力だった。

作風は、既成の書道展とは、趣が異なる。島崎ふみさんの書は、いわゆる方代の歌を素材にして、形式や技術の熟練度を誇示しようとするものではない。方代の歌を読み解き、方代のうたのこころに迫り、これを視覚化していく。いわば、書による方代の「短歌論」だともいえる。「書にいのちを取り戻し、書の芸術性を高めたいですね。筆をとるとは、思考することでもあるの

です」と、志を語る。

書をはじめたのは小学生の頃から。素直で優秀であり、何の自覚もないままに、書道展では常に優秀賞を獲得し、教師や親を喜ばせてきた。当然のように大学は書道科に入学、前途も約束されていた。しかし、卒業後、陽のあたる道の半ばで、立ち止まってしまった。

書道界の「権威主義や、閉鎖性、因習に、居心地の悪さ」を感じるようになった。また、「手本を見て文字を書き写すばかりの修業に、疑





するようになる。23歳で母を亡くし、88歳の父と横浜の姉の家に転居、3年後に出征した。右目失明。復員後、傷痍軍人の訓練を受け、靴の修理の仕事をする。第一歌集『方代』を自費出版したのは、昭和30年(1955)、41歳のことだった。

巡り会ったばかりの

問」をもつようになった。「書くとは何か」「表現するとは何か」という根元的な意義を求めるようになった。

書の道を、断念した。ひとりの旅のはじまりである。

晩年の方代と歌会で会う

中道生まれ、方代の人生

書と離れ、自ら短歌結社「うた」に所属することを選んだ。はじめて、歌を作った。32歳だった。「うた」には創刊から山崎方代が参加していた、歌会で幸運な出会いをすることとなった。昭和56年(1981)のこと、このとき方代は67歳、亡くなる3年前ということになる。

方代の印象は「長い髪を手でくし上げ、歯がないこともあってか、喋るのが得意でなさそうで、うふっふと、恥ずかしそうな、こもった笑い声を洩らしていた」といい、「それでもご婦人方に囲まれ、何やら面白いお話をなさっているのか、人気がありました」と、振り返る。

山崎方代は大正3年(1914)11月に、現在の甲府市中道町の右左口に生まれた。少年時代から年長いた両親を支えながら短歌を作り、地域の歌会に参加し、新聞に投稿

方代が他界したのは、昭和60年(1985)で、享年70歳。このとき「うた」では追悼号を計画し、島崎ふみさんは年譜の作成を担当することになった。方代の人生を辿り、方代の歌と、いよいよ深く関わることになった。

方代の年譜づくりに専念

魅力は野性的な存在感覚

中道をはじめて訪ね、歌人の風土を散策した。「魚のきた道ともいわれる中道往還が通り、歴史があり、自然も繊細だと感じました。方代を取り上げたという、産婆さんにもお目にかかりました」。方代の歌を、さらに身近にしていって。

やがて、方代へのこころの旅は、『山崎方代全歌集』の年譜として結実する。島崎ふみさんは、方代を、「死と隣り合わせの存在から逃げず、自己を直視した」と評価し、「野性的な存在感覚と、柔らかな人間性に惹かれる」とし、「短歌に生きる自己への信頼があり、独自の短歌を追求し、生涯を貫いた」と敬愛する。

方代の歌には、「ユーモアのなかにも人間の存在の悲しみがあり、物語性がある」ともいう。島崎ふみさん推奨の歌を、ご紹介したい。

このわれが山崎方代でもあると云う  
この感情をまずあばくべし

宿無しの吾の眼玉に落ちて来て  
どきりと赤い一ひらの落葉

皿の上にトマトが三つ盛られおる  
その前におれがいる驚きよ

かりそめにこの世を渡りおる吾の  
まなこに白きかたしろの花

封のまま女の手紙を束にして  
軒に吊して暮している

再び「書」の道に立つ

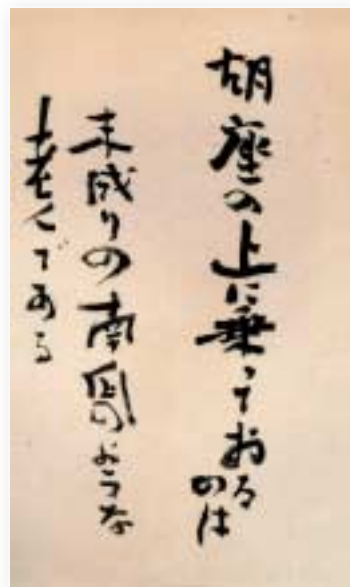
筆にたぎる思いを託して

山崎方代の歌と出会ったことで、また、歌を作ることで、島崎ふみさんは、再び、書の道に立つことを決意した。50歳だった。歌を作る方法と、エネルギーに、筆をとる態度と、書のあるべき姿を見出したからだ。「書の形式や、技術を超えて、生命の輝きを表現したい、筆に全人間性を託したい」という理想からだった。

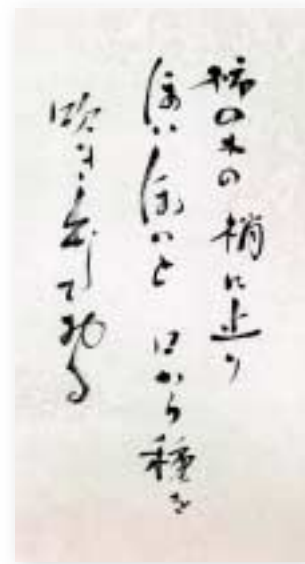
方代短歌を視覚化し、注目されることになった第1回の個展は、平



島崎ふみさんの世界



島崎ふみ 方代を書く



イベント開催

『島崎ふみ 書展 in山梨』

2009

11月13日(金)~18日(水)

会場:山交百貨店5F

成14年(2002)のことになる。書の道を断念し、短歌をつくりはじめてから、じつに20年という、長きにわたる旅だった。

制作にあたっては、何度も書き直し、出来の良いものをよしとする、という作法ではない。「ひとつの歌に対して、日々に問答し、味わい尽くし、高まる思いのなかで筆をとり、ひと息に作品を仕上げる」のだという。感動のありかを表現しているともいえる。歌の生まれる瞬間と、通い合う。鑑賞もまた、創作である。

書楽会「アズール」を主宰し、後進の指導にもあたっている。「アズール」とは、聖なる地を指す。もとより、手本はない。受講生は、まず、筆をとる意義と、問いかけ、喜びの発見から始まる。

第5回となる甲府での個展の開催に向けて、もっか、集中している。何よりも島崎ふみさんの書は、気難しくなく、平易で、誰にでも読め、書の世界に誘う。いかめしい額装や、形式的な落款もない。人と人が、静かに向き合う空間だ。

〔構成:三神 弘〕

表紙の解説 ハイタカ



爛爛とした鋭い眼、鉤のように尖った嘴や爪、風を切って素早く飛ぶ精悍なハイタカは、古くから野生動物界の頂点の座を独占してきた鳥である。

戦国大名たちが競ってハイタカを“鷹狩り”に利用したのも勇敢でほとばしるような覇気あふれる動きに魅せられたからに他ならない。

人間社会でも卓越した実力者たちは“タカ派”と呼ばれていて、優れたリーダーシップを発揮し、部下をまとめ社会に大きく貢献し、多くの実績を残している。

ハイタカの餌のほとんどは野生鳥類であるため、遠方の林の中で動かずに獲物の動きを見つめていながら追いつめるチャンスをじっと待つ。追いつく距離がわかると猛スピードで飛び出し空中で捕える。

“能ある鷹は爪を隠す”の諺どおり、「静と動」を見事に使い分けする能力も身につけている孤高の鳥でもある。

山の端に獲物見つけしハイタカの  
風切羽は空を裂く  
(依田 正直 作)

やまなし野鳥の会会長  
日本野鳥の会甲府支部長 依田 正直

「MUH」vol.41 2009.10.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

望月公貴・小澤徳容・米山昌二・青柳友昌・

樋口明美・齋藤慶子・雨宮千鶴子

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・小林大介・岩間新太郎・千野和美・

萩野由香・杉田陽子・浅川毅・標克明

印刷／株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託したMate(仲間) Union(結束) Harmony(調和)の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。



## 江戸のリサイクル

# リサイクル

「虫売りは一荷に秋の野をかつぎ」という川柳がある。江戸のまちは、いつも物売りで満ちていた。虫売りというのは、担ぐ屋台を路傍に置いて虫を売ったものである。

蛭、こおろぎ、松虫、鈴虫、くつわ虫、ほかに玉虫から<sup>ひばし</sup>爛までさまざまな虫を売った。

とはいえ、虫は秋が来る頃にはその一生を終える。

モノも、形あるものは必ず壊れる、とのたとえ通りに虫とは違う形でその生涯を終えるのだが、どっこい、江戸ではリサイクルが、武士から庶民に至るまで、当然の形で行われていた。

鋳掛屋（いかけや）が、一番有名なりサイクル業者であったろう。鍋や釜の修理業を鋳掛屋という。「鍋、釜あ、いかアケー」という大声を掛けながら、町を歩く。天秤棒に担いだ荷に、修理道具が入っている。

次に有名なのは、焼き継ぎ屋である。

割ってしまった皿やどんぶりなどいわゆる瀬戸物の破損をなおす商売であった。現在のように、割れたら捨てて新しいのを買えばよい、という時代ではなかった。

こんな川柳がある。「焼き継ぎ屋夫婦喧嘩の門に立ち」。夫婦喧嘩で皿が飛ぶ、茶碗が飛ぶ。その修理をあてにした商魂を詠ったものだ。

山梨県内にも、焼き継ぎ屋が修理した瀬戸物類が大量に出土した遺跡がある。南巨摩郡増穂町の富士川沿岸。中部横断自動車道の路線上で発掘された。

その大量のリサイクル品には、発掘にあたった考古関係者が驚いたという。改めて江戸社会のリサイクルを評価したからである。

さて、江戸時代も現代も、絶対にリサイクル出来ないのが人間。甲州方言でいえば、「おええちまった（終わってしまった、の意味から、壊れてしまったを表す）」人間のことである。こればかりは、焼き継ぎ屋にも鋳掛屋にも手は出せない。

ところでくだんの、江戸の夫婦。

喧嘩はしたものの、壊れたのが茶碗で良かった、とその晩には仲直り。焼き継ぎしたばかりの瀬戸物で飯を食い、白湯を飲んだ。してみれば焼き継ぎ屋は、夫婦仲を取り持つ役割も果たしたらしい。

### 江宮隆之

## いつかは言える、さらばごみたちよ

またもやチョット見の悪い癖が出てしまった。知り合いのチェロ演奏会のことを思い出して途中まで書きはじめていて、ふと「原稿提出日の締め切りはいつだっけ」と確認するため改めて依頼文を読み直して仰天。なんと「リサイクル」がテーマなどではないではないか。今回のテーマはあまりにも今日的な「リサイクル」だったのだ。

視力が極度に弱くその上チョット見、わたしは時々こういうヘマをやらす。5と6を、3と8を間違えて電話をかけ冷や汗を何度もかいた。何年か前、ポーランドの国民的詩人ポペスクが清里に来たときに彼女と食事をする機会があって、その折「女心」という詩はいい詩ですね、とそばにいた彼女の詩集の詩訳者に話しかけると彼はきょんととして、何ページですか、とわたしに尋ねた。ページをいうと、ああ「安心」という詩ですね。身体中に電流が走り、一瞬にしてわたしはその場に凍りついた。

眼を再生したい、他人の眼を移植したい、失敗のたびに思う。けれど、いつしかその気は失せてしまう。失敗は時に他人に迷惑をかけ失礼もする。罪でもある。結果

的、場合によっては犯罪にもなりかねない。そこで、眼球リサイクル法なる法律ができないものか、と密かに期待する。法律の力で強制的に正しい視力の眼に再生させるのだ。強制ではないが、アイバンクの活用という方法もある。だが、まだその気にはなれない。

さて、容器包装リサイクル法を皮切りに、家電、建設、食品、自動車、パソコンなど、いまやわれわれの暮らしは数々のリサイクル関連の法律に囲まれている。多くのモノがリサイクルの視点で見直され、製造段階からリサイクルを前提とした物づくりとなっている。こうなればやがて、ごみも存在しなくなり、ごみという言葉も死語になるにちがいない。

資源は循環する、ごみよさらば、というものの今日は燃えるごみの排出日。奥さんたちが、ごみにしてしまったモノを袋に入れ、「朝から暑いじゃんね」などといいながら、わが家の前をとおっていく。カミさんが主人であるわたしを生ごみとして出そうとし、足に絡みつく。

### 古屋久昭

## リサイクルの「こころ」

定年退職したヤマザキ君が、ある日、わが家にふらりとやってきた。大きなゴミ袋みたいな荷物を持っている。何を持ってきたのかと思ったら、古い映画のビデオだという。ざっと百本ほどもある。

「いないから、もらってくれないか」

聞いて、思わず苦笑してしまった。

ヤマザキ君とは高校時代からの友だちで、その頃からお互い映画が好きだった。あの映画を見たか。見た見た。で、どうだった。あの俳優がよかった。バカ言え、こっちのほうがずっとよかった。そこで、最後はたいてい口ゲンカになる。数え切れないほどゲンカをしたが、いつも次に会うときは「あの映画、見たか」「見た、見た」で始まる。

そういう仲だから、古いビデオを持ってきた彼の気持ちがすぐにわかった。仕事をしていた日々、ヤマザキ君はこれらのビデオを生活のなぐさめにしていたのだろう。職場でつらいことがあっても、一心不乱で映画を見ることでそれを忘れたのではなかったか。そんな日々が数え切れないほどあったはずだ。

## ささやかだが、案外大事なこと

リサイクルというと、戦争中、物資が足りないので、銅像や鉄製品を供出した話が思い浮かんでくる。日本だけだと思っていたら、アメリカも各家庭から鉄や銅などの不用品を積極的に供出していたそうだ。

戦後すさまじい消費経済が世界的に進行し、地球上の資源が有限になってしまった。アメリカの石油が枯渇し、石油輸入大国になった頃から、持たざる国日本の燃費性の高い車がアメリカでも幅をきかせるようになった。トヨタがGMを追い抜くなどということは、当時は考えられなかった。自動車王国の<sup>凋落</sup>は、環境問題を含む資源への考え方の不足が招いた結果だとも言えよう。

もともと自然は循環的にできている。その循環の機能を不可能にしてしまうのは、人間の巨大に膨張した消費経済だ。石油は何億年と眠っている地下資源を取り出して燃焼させているものである。現在のように地球規模で自動車などによって消費されると、循環の機能が壊れてしまう。また冷蔵庫などのフロンガスが地球のオゾン層を破壊することもその一つだ。原子力も、一つの事故

かくして、ビデオテープは山と残った。定年退職したとき、心機一転、ヤマザキ君はビデオを捨ててしまおうと思った。見てしまった映画なんか用はない。退職金もたんまりもらったことだし、過去とは決別だ。そう思って部屋を掃除してビデオの山を片づけたのだが、捨てる段になってもったいなくなった。

捨ててゴミにしてしまうことはない。自分には不要になったものだが、どこかに生かせるところがあるのではないか。そう思った末、わたしのところへ持ち込むことにしたのではないか。

これは、すなわち「リサイクルのこころ」である。価値がなくなったものでも、場所を変えればよみがえってくる。そうヤマザキ君は考えたのだろうが、これは彼の計算違いである。

わたしだって映画好きだから、すでに捨てられないビデオは山とある。それに、ヤマザキ君の持ち込んだ映画の半分以上は、すでにわたしも見たものだ。この上、ゴミの山を持ち込まれたらたまったものではないのだが、まあ、長年の友情に免じて許してやろう。

### 五十嵐勉

や一つの爆弾で、破壊だけでなく取り返しのつかない循環不全を招く。地球の滅亡にかかわってくる。

地球環境とか、「エコ」の考え方のなかには、我々を取り巻く自然環境が唯一のものであり、もし損なわれると取り返しのつかない結果になるというおそれが横たわっている。右肩上がりの成長経済の考え方はもう古い。いかに現在の環境の中で充足感を持つか、成熟度や幸福度や充実度などもっと別な指標で経済を考える見方が主流になっていい。右肩上がりをよしとする成長への信仰の中に、環境問題と衝突せざるを得ない因子がある。

リサイクルはこの地球や自然を大事にするという考え方が基底にあると、意味も目的も深くなる。いらなくなった新聞を古紙として出す。不要な電池や、金属、缶類を再利用のボックスに入れる。古着をボランティア団体に出す。習慣や近所社会の付き合いとしてだけでなく、それに自分たちの環境や生活を守るという意識が添えられると、なんとなく丸く、潤いに満ちてくる。ささやかだがそれが案外大事なことだと思う。

#### PROFILE

江 宮 隆 之  
えみや たかゆき

1948年増穂町生まれ。作家。第13回歴史文学賞、第8回中村屋湖文学賞受賞。『白磁の人』近著に『でっち上げられた悪徳大名 柳沢吉保』などがある

古 屋 久 昭  
ふるや ひさあき

1948年御坂町生まれ。日本現代詩人会会員 日本現代詩歌文学館評議員。詩集に『落日探集』ほか。童謡集に『虫らしく花らしく』エッセー集等

岩 崎 正 吾  
いわさき せいご

1944年甲府市生まれ 作家 山梨ふるさと文庫代表 現在 1冊でも本のつくれるオンデマンド印刷機を山梨に導入しようと奮闘中 また インターネット上で作家 出版活動をしようと模索中 今春新作ミステリー『探偵の冬』が刊行され、同時に『探偵の秋』が文庫化される

五 十 嵐 勉  
いがらし つとむ

1949年甲府市寿町生まれ 甲府西中、甲府一高卒 作家 「文芸思潮」編集長 「流論の島」で第2回「群像」新人長編小説賞受賞 「緑の手紙」で第1回読売新聞・NTTブリック主催インターネット文芸新人賞最優秀賞受賞

#### お知らせ

MUH創刊号より40号までご執筆を載きました佐藤眞佐美氏が3月にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。ご愛読有難うございました。



# 予期せぬ出来事

山梨学院大学 経営情報学部教授 宮塚 利雄

衆議院選挙の投票日が近づいてきた。今回の選挙では民主党が予想以上の大差で自民党に圧勝するとの前評判である。四年前の選挙の時は自民党が民主党に圧勝したが、今回はその逆の現象である。一年前には誰もが予想もしなかった事態が起ころうとしている。さて、私的な話で恐縮だが、今夏、予期せぬ体験をした。一つは8月初めであった。私は北朝鮮を研究対象としているが、肝心の北朝鮮には1991年に二回入国したものの、以後はなぜか入国を拒否されている。このために翌92年からは、北朝鮮を間近に見ることができる中国側から、観察している。32回目となる今回の中朝国境踏査は、豆満江側である。中朝国境は白頭山(中国名は長白山)に源を発し西側の黄海に流れる鴨緑江と、東側の日本海側に流れる豆満江(中国名は図們江)からなっている。今回の踏査の目的は白頭山の中腹にある双目峰に行くことだった。ここは豆満江の溢瀾地点よりもさらに上の方にある、陸路で結ばれた唯一の幻の中朝国境と言われてきた所である。私はこれまで二度この双目峰の中朝共同管理場(韓国と北朝鮮の国境共同警備区域である板門店のような所)に行っているが、行く途中に中国側の軍の検問所が二カ所あり、地元の民間人はもとより外国人が容易に行ける所ではない。ここが今年の6月から観光ルートとして開放されるという地元紙の報道があったと、中国の知人から知らされ、外国人の訪問者第一号を目指して、馳せ参じたのである。しかし、実際に行ってみると開放どころか、道路もまともに整備されていない状況であり、豪雨の中ようやく共同警備場の中国側の警備事務所にたどり着き、警備場を見学したいと申し出たら、けんもほろろに「ここはそんな所ではない」と追い返された。あとで知ったことだが、私が行く一ヶ月も前に北京にある日本大使館の領事二人がここを訪ねて、同じように追い返されたという。双目峰は人煙稀な山中にあり、もともと観光客などが訪ねて行く場所ではない。帰りは豆満江の源流に沿って下ってきた

が、川幅が2mにもならない、浅い場所にも関わらず中国側には有刺鉄線の張られた鉄条網が延々と続いていた。このような山中から脱北するような者などいないはずなのに、なぜか中国側は鉄条網を張り巡らすのか。そういえば昨年8月に鴨緑江の上流を遡った時も、川幅が迫り浅瀬の所にも中国側の鉄条網が張り巡らされていた。北朝鮮からの脱北者は一人残らず捕まえるという、中国側の北朝鮮側に対するメッセージなのだろうか。3時間ほどして月晴鎮という小さな村を通過した。ここは今年の3月にアメリカ人の女性記者二人が、北朝鮮の国境警備兵に捕まった所である。私は何度かここを通過しているが、中国側はいったってのどかな田園地帯であり、国境警備兵などはいない。しかし、対岸の北朝鮮側も辺鄙な部落が見えるだけであるが、よく見ると国境警備兵が常駐する詰所が300メートルくらい置きにあり、軍の建物もある。二人のアメリカ人記者はなぜこの川を渡ったのだろうか。3月といえども豆満江は凍っているの、渡ろうと思えば簡単に渡れるが、何のために渡ったのか理解できなかった。この二人がクリントン元大統領が平壤を訪れ、釈放されたというニュースを知ったのは、月晴鎮を訪れた日の夜であった。

双目峰の共同警備場に入れず、がっかりしている私に案内人が「実は中国と北朝鮮が陸地で接している場所があり、夜になるとお互いが行き来している」とおもむろに話してきた。

私は中朝国境1,400キロを隅から隅まで見ているが、まさかそのような中朝国境があるとは夢想だにできなかった、予期せぬ出来事である。翌朝、観光コースを変更して、その幻の国境地点に向かったが、その一帯はこれまで何度も通過した所である。ただ、幻の国境地帯は川を越えた北朝鮮側にあり、今まで気がつかなかったのである。流れの速い川を歩いて渡り、ようやく幻の国境に辿り着いた時の感激と興奮は未だに冷めやまない。



「ご出身はどちらですか？」転勤族として地方を方々住み渡るたび、必ず質問し合うのがこの言葉。地元か、転勤族か、それとも他県から住みついた方なのか、そんなやりとりが会話に飛びこみます。私は東京ですが、とこたえろと、そばでやりとりを聴いていた息子が、必ず「ぼくは山梨！」とこたえます。親と出身が異なるやりとりも滑稽なものです、息子が生まれてから二歳まで育った山梨を「出身」として即座に言う姿が、なんとも微笑ましく嬉しく感じられます。

そもそも、故郷とはどんな場所をさすのでしょうか。広辞苑によると、「生まれ育った土地。ふるさと」と書かれていました。今に至る迄、実家が同じ場所にある場合は迷わずその土地を出身地と思えるのですが、私の場合も、今の実家の場所よりも、10才ごろまで育った町のほうが郷愁をおぼえるのは事実です。幼少期に培った感性、人とのやりとり等は、大人になってもどうやら基盤となっているようです。息子は二歳、三歳と住まいが変わっており、もし東京に帰省して息子を産み、育てていたら、山梨にこれほど愛着を持てなかったのかもしれない。

そう思うと、故郷というのは、どこか心の原点のようなものに思えてきます。転勤族は同じ土地で子育てを出来ない為、いくら素晴らしい出会いの中で日常を過ごしても、生まれた時から息子の日常を知る人は親しいません。妊娠、

出産、乳幼児期を山梨で過ごすと、たとえその期間が短くとも、どの土地よりも知り合った方との絆や安心感を憶えます。三つ子の魂百迄とは、よく言ったものです。親の郷愁は多分にありますが、息子がいつも山梨を愛し、どこに住んでも毎年欠かさず共に「山梨帰省」をしていることが、転勤族として生きる息子の心の故郷のように思えてなりません。

山梨のなじみ深い場所や人を訪ね、「山梨の自然の中で生まれ育ったから」と言われる度、故郷の美しさを憶えます。自然と生き物をこよなく愛し、山梨から送られた桃やブドウをむさぼるように食べる息子をみて、いずれ訪れる20才のお祝いは山梨のお酒でと、密かに心に決める私なのでした。





# ボクのやまなしフィールドミュージアム08

なつかしいまちなみと、古道のたたずまい

山本育夫



甲州市の塩山駅周辺は、なつかしい。僕が日川高校生のころ、美術部の親友たち二人が塩山駅周辺に住んでいたの、よく遊びに来ました。その後、僕は浪人をしてしまい、塩山駅北口にあった蒲団屋さんの離れに下宿していたこともあります。実のところは、やはり日川の友人が、合格した山梨大学に通うために下宿していた部屋に、転がり込んだというわけですが。浪人した僕をかわいそうだと思ったのでしょう、

彼のやさしさは今でも忘れません。

そんな界隈をウォーキングする会ができた聞いたのは、もう二年くらい前のことでした。そのことを教えてくれたのは樋口なつ子さんという女性で、駅前にある甘草屋敷でボランティアガイドをしている方でした。このボランティアさんの活躍は有名で、ガイドだけでなく甘草屋敷内で吊るし雛を企画したり、ショップを営んだり、その活躍ぶりをご存じの方も多いかと思います。

さて、樋口さんたちが企画したのは、塩山駅北地区と呼ばれるエリアを歩くというもので、僕らも参加してみても、実にユニークなコースであることがわかりました。そこで、樋口さんと相談して、ガイドブックをつくり、実際に、まちミュージアムの会でもウォーキングを実施したのです。

このエリアは、いってみれば塩山温泉郷の面影を強く残したエリアでした。もちろん塩山温泉は現在でも健在です

が、その昔はさらに活気を呈していた時代があったのでしょうか。例によってこのコースの中で、僕流に関心をもった場所を、いくつか紹介してみます。

## ●塩山カトリック幼稚園

そのたたずまいがいいです。かわいい。室内もあたたかそう。庭にある藤棚もすごい。牧師さんにお話を伺いましたが、女性の牧師さん、やっぱり愛らしい(失礼)。ちなみにうちの司会進行役の内藤さんも、子どもの頃、よくここで遊んだそうです。

## ●袖切坂

中里介山の小説「大菩薩峠」には、「甲州の袖切坂で鼻緒の切れたお角の下駄を、どう処分しようかと思っ、二里も三里も持ち歩いたこともあります」とあります。あまりに急な坂だったため、人馬ともに疲れ果てて、命を落とす馬もあったようです。そのため、坂道で転んだ人は死者の霊に引っ張られないために着物の片袖を切ってお供えしたともいわれています。

## ●中村屋旅館

比較的町中にあって、いい味を出しているのがこの中村屋旅館。桜がよくにあう風情のいい旅館です。入り口の天井、扇子を広げたような細工がすばらしい。

## ●飯島家長屋門

通り沿いに見える長屋門。江戸時代には、人別帳を所有する名主だったそうです。幕末に建てられたという長屋門、今でも往時をしのばせてくれます。庭先にさりげなく置いてある、屋根に使われていたという男と女の鬼がわらが見物。雨が降ると鬼の口から水が流れるしかけが楽しい。

## ●波ウサギ

中央区区民会館の隣辺りにある成田山不動尊の石碑。その台座のところにいる「波うさぎ」はかわいいので、お見逃しなく。

## ●中央区区民会館

藤村式建築の面影を残す、区民会館。こういう建物が残されて、しかも活用されているまちって、すてきですね。まちなみの表情に奥行きがでます。人の集まりと同じで、まちだって老若男女寄り添っている姿のほうが美しいに決まっています。

というわけで、塩山駅北口周辺は、甘草屋敷ばかりじゃなくて、味のあるまちが残っています。

ちなみに、ここで紹介しているまちミュージアムブックは、甲府貢川の朗月堂、山梨県立博物館ミュージアムショップ、甘草屋敷ショップ、山梨県立文学館ミュージアムショップなどで購入できます。すべて1冊200円(税込み)です。つなぐNPOのサイトでも販売しています。



中村屋旅館



長〜く続いた行列・・・



山本育夫

特定非営利活動法人つなぐ理事長・まちミュージアムの会事務局長・武蔵野美術大学非常勤講師・元まち見物誌ランデブー編集長  
山梨県下に160を越すツアーコースと、同じ数のガイドブックをつくり、現在、毎月、2、3回のウォーキングやバスツアーを実施している。まちミュージアムの会会員は200名を越し、県下最大のふるさと歩き隊。関心のある方は、つなぐイベント係 080-1223-8302にTEL。

つなぐNPO公式サイト  
ランキングにチャレンジします。愛のワンクリックを!  
つなぐサイト→まちミュージアム最新情報→アイコン  
「山梨情報」をクリック  
<http://www.2a.biglobe.ne.jp/yamaiku/>



# わが青春の 娯楽雑誌

「実話と小説」「娯楽ガイド」「サンデー山梨」「話題と小説」

奈麻余美文庫主宰 **植松 光宏**

昭和30年代、山梨の雑誌

雑誌は時代を映す鏡とは名言である。雑誌を見ればその時代背景が良く分かる。今回は昭和30年代の雑誌をとりあげ、その時代の出版事情を探ってみたい。雑誌と云えども、多種多様、あまり専門すぎては、いけない。娯楽雑誌が良い。昭和12年生まれ私にとって、昭和30年代と云えば、大学生活を終えて、就職、結婚と、社会人として世間を歩み始めた、まさに青春時代。裏をかえせば、わが青春の愛読誌である。今回は「実話と小説」「娯楽ガイド」「サンデー山梨」「話題と小説」の4誌を取り上げてみた。

雑誌という言葉は、英語のMagazineの訳であることは、すでにご承知のこと。幕末に「西洋雑誌」なる雑誌が誕生、この時、初めて「雑

と云う言葉が使われたと云う。「雑」とは、多様な内容と形態の記事が、1冊の中に詰まっているという意味だそう。雑誌は、手頃な価格で多くの人々に情報を提供し、教養を深め、流行を生み出し、趣味娯楽の世界をひろげてきた。まさに4誌は私の趣味娯楽の世界を広げてくれた。

ここに愛読書「実話と小説」と云うタイトルの雑誌がある。「週刊誌大」と云う規格があるように、A4判である。表紙絵が良い。着飾った娘が大きな羽子板を抱えている美人画である。羽子板は役者絵である。カラーなのは表紙絵だけで、中はモノクロ印刷である。全頁をカラー印刷できない事情は経費削減だった。定価40円に抑えるには、苦肉の策なのである。紙はざら紙、ワラバン紙である。38ページ綴り、モダン甲府社発行だった。社長は小池公久、

営業部長柿木彦一他、総勢8名。小池公久は「夕刊山梨」を発行、マスメディアマンだった。

この号は新春読物傑作集とあるように、12本の小説が掲載されている。この雑誌に、熊王徳平が小説「柿岡曲馬団」を寄せている。熊王徳平この時43歳、この後「甲州商人」が映画化され、本県文学界の寵児となる。渋谷俊は元山日編集長、市の収入役をつとめる一方、健筆をふるう。「渋谷俊遺稿集」がある。保坂義照は「愁風天目山」の歴史小説をもつベテラン作家である。

今日のように、何処でも週刊誌が買える時代ではない。甲府市内では、春光堂、大和屋、朗月堂、徴古堂、柳正堂、甲府書房、岡島、松林軒と限られていた。

娯楽ガイドには映画優待券

次に愛読書「娯楽ガイド」。この雑誌もA4判の週刊誌である。定価10円。編集発行人は青山信一郎、創刊は昭和32年8月4日、毎週日曜日発行、毎回表紙絵は映画女優だった。「娯楽ガイド」には映画優待券がついていた。この割引券欲しさにこの雑誌を買った人もいた。今週のスクリーンと云うコラムが人気だった。映画解説書がおもしろかった。

ちなみに、この時の映画館とは、甲宝、武蔵野、松竹、東映、名画座、伊勢劇場、南嶺、甲南、かぶと、国際、ヒカリ、日活、シネマ、電気館、スカラ座の15館であった。上映期間は1週間であった。全館上映映画を紹介できないが、甲宝では「黒部峡谷」が、電気館では「OK牧場の決闘」、松竹では「大忠臣蔵」だった。これらの映画館は封切り館といった。料金は130円前後だった。封切



「娯楽ガイド」

り館のフィルムはやがて二番館へ。ここでは値段は半値で70円だった。1週間に1回は必ず映画館へ足を運んだ。土日曜日、どこの映画館も満席だった。

「娯楽ガイド」はその後、改名し「サンデー山梨」となる。わが「青春の教科書」である。ご覧ください。あえて私が紹介するまでもなく、映画「無法松の一生」のスチール写真のひとコマ、三船敏郎の華やいだ顔、見守る高峰秀子の眼差し。この映画で、甲府出身の村松恵子が銀幕にデビューした。映画を観る楽しさをこの雑誌が教えてくれた。「サンデー山梨」の表紙は、映画女優、オンパレードだ。川口弘と若尾文子、佐田啓二と久我美子、司葉子と原



「サンデー山梨」

節子、津川雅彦と有馬稲子等々。プロマイドにしたい衝動にかられる。

映画の後は、喫茶店でコーヒー

映画を観た後は、喫茶店へ。甲府市内には30数軒の喫茶店があった。競って店に特徴をもたせた。音楽喫茶などともよばれ、コーヒーをすすりレコード鑑賞会が行われた。タンゴ喫茶、シャンソン喫茶、ジャズ喫茶などなど。私も彼女を誘い、何度通ったことか。東電前のラセーヌの、クラシック音楽にはまってしまった。上野久雄経営の喫茶店ラセーヌは特に女性に人気があった。電気館裏の急な階段を上りドアを引くと、シャンソンが流れていた。「みぎわ短歌会」の上野久雄を知らぬ人は無い。惜しまれ、昨年亡くなった。喫茶店「ラセーヌ」を経営、カウンターで、気軽に話し相手をしてくれた。私も時に、競馬予想を教授ねがった。

喫茶店も次第にエスカレートし「十ルックスの応接間」などと云われ、深夜喫茶も出現、風俗営業取締法が施行された。

この雑誌「サンデー山梨」は、編集発行は上野久雄、事務所は平和通り山国屋ビル3階にあった。毎週火曜日発行、定価1部15円、印刷は銀嶺印刷だった。勿論、雑誌売上代が会社経営の一番の収入元となる。次が広告代である。雑誌の経営基本理念は今も変わらない。上野久雄がアイデアを出し、「美味しいものコンクール」などユニークな事業を展開し、会社を隆盛へと導いた。

最後に「話題と小説」。雑誌の裏付けを見ると、昭和22年7月10日とある。おそらく戦後、甲府で出版された復興雑誌と呼ぶにふさわしい珍

本中の珍本。A4判、32ページ。発行人は情報通信社小池光久、編さん人は、南竜彦。房前智光らが健筆を振るっている。南竜彦氏なる人物、筆が立ち「妖姫五人組」「あかね草紙」などの著書をもつ。

この時期の風潮として、全国的にカストリ雑誌が生まれ、路上で販売された。山梨県では出版されなかった。大衆受けを狙った表紙絵は見事である。



「話題と小説」

上記雑誌類は「奈麻余美文庫」でご覧いただけますが、下記のように特別展を開催。ご高覧ください。

## イベント

### 「ザ・雑誌・イン山梨」

コンビニで立ち読みする雑誌の面白さ、バスのなかで読む週刊誌の面白さ、内容はどうであれ、気軽に買える雑誌は、私たちの生活に溶け込み、切っても切れない、小さな情報発信基地そのものです。

雑誌は時代を映す鏡とも申します。時代により、内容は大きくかわります。雑誌の変遷を少しのぞいてみましょう。娯楽雑誌は、どうも中央にとられてしまったようですが、山梨の特性を活かした、格調高い文芸雑誌をおさらいしましょう。

日時：平成21年11月1日(日)～7日(土)  
午前11時～午後4時  
会場：紅梅通り ギャラリー「ココチ」  
主催：「奈麻余美文庫」と「ココチ」共催

植松 光宏 (うえまつ みつひろ)

元 甲府市立図書館長  
現 山梨大学非常勤講師  
奈麻余美文庫主宰  
昇仙峡御岳蕎麦保存会会長



「実話と小説」



公益信託大木記念美術作家助成基金成果発表展 7

早野恵美展

H A Y A N O M e g u m i

ある日の動物園

2009.9/12 土 → 10/11 日



《マンドリル》 2009年  
岩絵の具・雲肌麻紙・箔・合板 45.5×33.0×7.0cm

■会場 山梨県立美術館 南館・特別展示室(D室)  
観覧無料  
■開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)  
■休館日 9月14、24日(10月は休まず開館します)  
■主催 公益信託大木記念美術作家助成基金  
山梨県立美術館  
大木基金助成作家展実行委員会

同時開催 「やまなしの美術館大展示」／常設展 秋季

Access

中央自動車道甲府昭和インターより  
●アルプス通りを湯村方面に向かい、員川交番前交差点を左折し、1.5km直進して左側。  
●国道20号を笹崎方面に向かい、約2km進行、山県神社北交差点を右折し約1km直進後右折、甲府市街方面へ約1.5km直進して右側。  
JR中央線甲府駅より  
●駅前バスターミナル⑥番乗り場からバスで約15分、「県立美術館」下車。(竜王駅経由教員営業所・芦安・大草経由笹崎・員川団地・社会福祉村・中村循環・総合交通センター行きのみいずれでも可)  
●タクシーで約15分。(料金1,600円程度)  
身延駅より  
●教員営業所行バスで「県立美術館」下車。



山梨県立美術館 Yamanashi Prefectural Museum of Art  
甲府市員川1-4-27 〒400-0065 Tel. 055-228-3322 Fax. 055-228-3324  
http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/



山頂直下の大ガレ、ナナイタガレの威容



七面明神を祀る敬慎院の本堂

しちめんざん

七面山 (1,982m)

早川町・身延町

写真・文：上野 巖

七面山は日蓮宗の聖地として有名で、山頂近くの本社(敬慎院)には、日蓮宗の守護神である七面明神が祀られ、古来から登山する信者が絶えない。敬慎院通拝台からの富士日の出には定評があり、特に春秋の彼岸の中日には、富士山頂の中央から太陽が昇るので、その一瞬を拝み、写真に撮ろうとする人々で大にぎわいになる。

七面山への一般コースは、角瀬から車で10分ほどの羽衣地区からの表参道となる。コース入口の反対側、羽衣橋を渡った所には「お万の方」の像が立ち、後に白糸の滝が落ちている。マイカーは、特別の日以外はコース入口の杉木立の中に置ける。

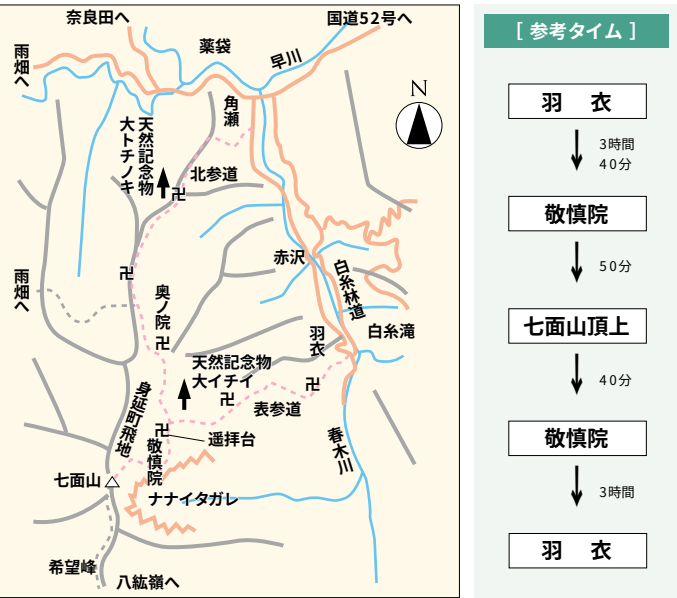
杉の根を踏み、ジグザグを繰り返す表参道は、かなりの傾斜がある筈だが、よく整備されていて歩きやすい。途中には、休憩出来る宿坊が四つほどあり、その外にも随所に信者のためのベンチが備えられている。途中一か所、木立の間から古い宿場の赤沢集落を見

敬慎院隨身門前の通拝台から見る黎明の富士山

下ろせる場所がある。

コースが緩やかになって和光門をくぐり、敬慎院の境内を進むと左手に隨身門前の通拝台があり、富士が正面に聳える。七面明神の祀られている本堂は一段下だ。七面山の山頂までは、ナナイタガレの縁を辿ってなお50分の登りである。一般的には日帰りはきついただろうし、特に富士の日の出を見たい場合は、宿泊しなければ不可能だ。(敬慎院では、予約さえしておけば宿坊に泊めてもらえる)

時間的に余裕がある場合、帰路は奥ノ院を経由して北参道を下れば、いろいろ見るべきものがある。







樋口一葉(夏子)が両親の郷里山梨を一度も訪ねたことがない、というのは、いつ誰が何を根拠に言い出したものだろうか？ それがはつきりしないのに、私など「来ている」派は少数派で時に「鼻肩の引き倒し」のように笑われることさえある。

例えば小説『ゆく雲』の道行き文めいたくだり(下段)の猿橋、鶴瀬、駒飼の宿や勝沼、甲府市

街についての表現はどう読めるだろうか。旧甲州街道を三日ほど汽車や馬車に揺られた経験がなければこの修辭は成り立たないと思われる。両親の故里である大藤村中萩原(現甲州市塩山)について「白妙の富士の嶺は、をしみて面かげを示さ」ないと書き付けているところ以上に、ここは山を越えた一葉の実体験の反映と考えるのが普通だろう。

年代ははつきりしないが、一葉は一度は母、兄たちと共に山梨を訪れている。もう一度は明治二十三年早々母の里帰りに同行している。その二年前には彼女は在京の樋口家の「相続戸主」となっており、前年には父則義も没している。

当時東京から山梨へ来ようとする

者は先ずは人力車などで新宿まで出る。そこから甲武鉄道で終点の八王子まで行く。本郷や下谷あたりから出れば普通はここで一泊する。そこから馬車に揺られて旧甲州街道を辿る。

通例、鳥沢を過ぎれば猿橋のたもとの大黒屋に二泊目の宿をとる。作中、一葉は「桂川」を「笛吹川」と誤記する。ここにも案内記や人づてで書いたのではない妙なアリヤがある。乏しい灯火の峡谷沿いの宿に、猿声は聞こえぬまでも激流の轟きに怯える一葉の顔付きが目に見え、折しも山梨県立文学館では開館二十周年記念企画展「樋口一葉と甲州」を開催中だ(十一月二十三日)。

## BOOK 素晴らしい本との出逢い



山梨県立文学館企画展「樋口一葉と甲州」

甲斐の山山遠近に連り山高くして谷深し、桂川の流れ清麗なり、十歩二十歩行く間に変わる絶景、拙筆に写しがたし、猿橋の向茶屋にて山女魚の煮びたし等ならびたり。

安藤広重旅日記

『甲州道中』より

山梨に来ている？

## 樋口一葉(旧甲州街道・猿橋)

文芸評論家

福岡 哲司



猿橋のたもとの芭蕉句碑  
「憂き我を淋しからせよ閑古鳥」

昭和二十三年生まれ  
「野田 深沢七郎ラフソディ」で開高健奨励賞  
「近世山梨の光と影」山田ライブラリー  
平成二十年度甲府市民文化奨励賞

小説『ゆく雲』より

酒折の宮、山梨の岡、塩山、裂石、さし手の名も都人の耳にききなれぬは、小仏ささ子の難所を越して猿橋のながれに眩めき、鶴瀬、駒飼、見るほどの里もなきに、勝沼の町とても東京にての場末ぞかし。甲府は流石に大黒高橋、躑躅が崎の城跡など見る処のあり

(中略)

八王子までは汽車の中、をりればやがて馬車にゆられて、小仏の峠もほどなく越ゆれば、上野原、つる川、野田尻、犬目、鳥沢も過ぐれば、猿はし近くに其の夜は宿るべし。巴峽のさけびは聞こえぬまでも、笛吹川の響きに夢結び憂くこれにも賜たたるべき声あり。

## ふるさとの歌と芸能をたずねて

伝統を伝える素朴な奈良田の歌と踊り

## 手まり唄と子守唄

奈良田には「手まり唄」が伝承されている。

「手まり唄」は江戸時代にお正月少女等が碁をついて遊んだ。明治になると碁がゴムとなりよく弾むので、通年の遊びとなり日露戦争などの語りを取り入れられるようになった。

しかし、高度成長を経て路地にも車が入り、テレビやゲームなどの普及と共に巷からなくなった遊びである。

古い手まり唄はかつて道志村など県下各地で歌われていて、県教委の「山梨の民謡」にはおびただしいその記録が残る。しかし実際歌えることとはまた違う。その意味で現在奈良田に歌い継がれていることは貴重である。その古い「手まり唄」を伝承する深沢八重子さんと深沢いさおさんは、掛け合いで歌う。

「あずま街道のお茶屋の娘は 親にまいたる手ききで 一つでは乳を飲みそろ 二つでは乳にはなれて 三つでは手習いしあげて 四つでは寺からさがりて 五つでは糸をとりそ」と続いていく。



劇作家  
水木 亮

「一九四二年生まれ、早大卒。劇団主宰。小説『祝祭』で第六回樋田作之助賞。小説『お見合いツアー』で第四回国民文学賞」

また「子守唄」も伝承されている。子守唄にはその家の人が子供に聞かせる歌と、お手伝いが自分の気持ちを歌うのがあるようだ。「五木の子守唄」などが後者にはいる。

深沢里子さんによる子守歌は、「うらが家のぼこを だれがかまらた 誰もかまあのに お泣きやるか」

奈良田独特の子守唄である。これも県下一円にかつては歌われたものであろう。

この反面、長野の飯田市と伊豆七島、そして奈良田と日本に三カ所しか残っていないと言われた、貴重な江戸時代の「絵島」の歌や踊りが奈良田ではすでに消滅している。長野県には残っているのに残念なことである。

新潟県では学校で「佐渡おけさ」を教えるように、山梨県でも貴重なものを子ども達に継承して行くことが大切ではないか。国民文化祭を前にして、山梨県でどのような民俗芸能が披露されるのか注目したい。

「写真」  
「奈良田の子守歌を歌う深沢里子さん」



本誌九号十号(一九九六年)に「早野欽介甲府通運株式会社設立に付いて」と題して甲府通運創立に関する記事を書いたが、これは欽介夫人の信子女士が欽介氏より語られた事や想い出を記録として残されたもので、文中には欽介氏の会社創立の熱意が語られている。

今回、この甲府通運創業(昭和二十五年)から二年後の昭和二十七年(一九五二)二月に中央線石和駅を甲府通運指定駅といたしたいとの申請をした時の運輸大臣村上義一に提出した『通運事業免許申請書』を閲覧することができたので、会社発足後二年を経た昭和二十七年当時の会社概要を述べてみよう。

- 事業の経営上使用する記号及び略号
- 記号 小 略号 ン
- 取扱駅及び通運事業の種類並びに業務の範囲
- 中央線石和駅 通運取扱業、通運代弁業、鉄道集配業、貨車積卸業、鉄道利用業
- 道路運送法第四十六条の規定により指定を受けようとする種類
- 自動車運送事業の種類
- 通運事業のためにする一般貸切貨物自動車運送事業

## 物資流通とともに歩む 甲府通運

～ 石和駅に営業所を開設 ～

以上が許可申請の主項目で、続いてこれに関連する事業計画書が添付されている。

○主たる事務所及びその他の事業場の名称及び所在地

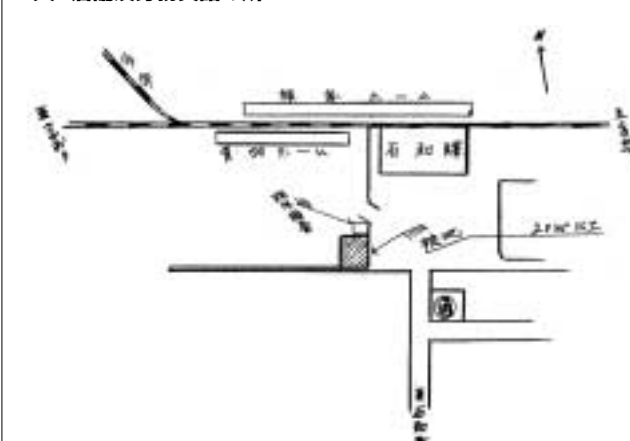
甲府通運株式会社石和営業所 山梨縣東山梨郡岡部村松本 関係取扱駅石和駅 事業所の距離 駅より三十米 建物の棟数及び構造 木造瓦葺平屋 建二十平方メートル一棟

林 陽一郎

はやし よういちろう  
甲府市教育委員会文化振興指導員  
山梨郷土研究会

取扱駅を中心とした作業用建物等 所在位置略図

(1) 店舗及労務員詰め所



添付の図をみると現在の石和温泉駅前広場の西側最良の場所があり、当時の旧甲府駅と同じ様な構内配置となっている。倉庫および車庫は西山梨郡甲運村川田、ともに木造板葺平屋建となっている。労務員詰所は石和営業所内になっている。

運送業の最大必要具である運搬具については、

(一)、貨物自動車車輛(内訳普通車 壹輛、小型車、特殊車なし) 車名はトヨタ、年式は二六〇七(西暦でなく紀元暦で昭和二十二年にあたる)型式B M、原動機及燃料はガソリン、最大積載量は四屯、備考として集配数量大なる時及び休車

の場合には本社車輛を充当すとの付記がある。

なお本社では当時、国産大型車が不足の時節であったために米軍払下げの大型トラックを使用していたが、石和の場合には国産四屯車を使用している。主たる事業区域は石和駅を中心とした石和町、東山梨郡岡部村、春日居村、東八代郡英村、錦生村、八代村、御所村、花鳥村、一宮村、境川村、富士見村、浅間村、西山梨郡甲運村(川田、和戸)となっている。

(二)、貨物軽車輛総数及び種類別輛数

これについては、自動車以外の運搬具を記載する欄で、馬車、牛車、リヤカー、牛馬、肩引の欄があり、当社ではリヤカー一台と報告している。牛馬はそれぞれの背中に荷物をつけて運搬することで、すべて現在では見ることの出来ない過去の姿となってしまう。この他営業所には自転車一台、電話一台、台秤(五〇〇キログラム)一台、そして机二ヶと椅子が配備されている。購入評価額として自動車一台十九万九千九百円、リヤカー一台一万円、自転車一台一万八千円、台秤一台一万七千五百円、電話(加入権)二万四千三百円となっているのを見ると当時の様子がしのばれる。

## 協同組合山梨安心サービス、関東商工会議所連合会 ベストアクション表彰受賞！

### ● (協) 山梨安心サービスの設立と活動

(協) 山梨安心サービスは、平成13年1月に高齢者の為に地域に貢献するべく、山梨県内の有志企業が集まって設立されました。

参加業種は、居宅介護サービス業、警備業、理容業、銀行、ホテル、スーパーマーケット、建築サービス、印刷、法律事務所など多種多様であり、現在26社の組合員が所属しています。異業種の集まりである当組合は、当初から「高齢者の在宅生活支援」という意思を同じくするため、まずは勉強会からスタートし、現在まで以下の3つの考え方を中心に、活動を進めています。

- 組合活動を通じて地域へ貢献すること
- 組合で高齢者の支援事業を推進すること
- 参加各社の自業繁栄のために貢献できること

参加企業(50音順)

(株) アピオ・(株) アンク・(株) いえPRO・(株) オギノ・(株) 甲府キンタイサービス・甲府通運(株)・甲府ビルサービス(株)・(株) 古名屋・(株) サンテレコム・セコム山梨(株)・(有) 曾根理美容室・(有) ダイナ・トヨタホーム山梨(株)・(株) 日本ネットワークサービス・日本連合警備(株)・ネットヨタ甲斐(株)・(株) ハートフルスタッフ・(株) 早野組・早野組欽明会・古屋法律会計事務所・(株) まもかーる・(株) 三井住友銀行／甲府法人営業部・(株) やさしい手甲府・(株) ヨネヤ・(株) YSKe-com・(株) ロード

### ● 活動内容

#### 高齢者の電話相談窓口「安心電話」の開設

平成15年9月に「安心電話」を開設し、高齢者のための相談窓口として、現在6,000件を超える登録をいただいております。この安心電話では、福祉用具の相談、住宅改修、高齢者の引越などの相談に応じています。

#### 「銀座街の駅」OPEN

平成17年6月に、甲府商工会議所と協力し、国・県・市の補助を得て中心商店街に少子高齢化対策の三世代交流施設「銀座街の駅」を開設しました。この施設は平成20年に国の中心市街地活性化本部より認定を受けた「甲府市中心市街地活性化基本計画」の認定事業にも指定されています。

また、「銀座街の駅」は、当組合が一階をお年寄りの交流スペース「安心ギャラリー」として運営し、未就学児童の預り施設として二階を運営している「ハッピーキッズGINZA」と連携して、中心商店街のオアシス的な役割を担っています。

安心ギャラリーでは、組合企業の企画により、季節に合わせた様々なイベントを開催しています。

◆銀座街の駅 TEL 055(231)6632



山梨県甲府市上石田1-7-14

介護に関するご相談は TEL055(236)6210  
<http://www.yasashiite-kofu.co.jp>



在宅介護サービス  
株式会社 やさしい手 甲府

## 医療・福祉のプロフェッショナルを迅速に紹介・派遣します。

## ホームページリニューアル



もっと自由に、もっとあなたらしく  
薬剤師、看護師、介護士さんなど医療と介護の現場へ『復職』又は、『転職』を希望されているみなさまへ  
私たちハートフルスタッフの専任コーディネータに是非一度ご相談ください。みなさま方の要望に応えられる職場あるいは働き方について詳しくご案内いたします。なお、東京、神奈川方面への転職希望のみなさまについてもご相談に応じております。

パソコン・携帯からのお仕事検索と応募が可能になりました。



ハートフルスタッフ 検索  
<http://www.hf-staff.jp/>



ハートフルスタッフは医療 介護 福祉に特化した人材派遣業と職業紹介事業を行なっている会社です。

株式会社 ハートフルスタッフ

派遣・紹介に関するお問合せは

TEL055-236-0123  
Koufu:Hachioji:Choufu:Yokohama:Shinjuku



# オリジナルグリルのbBは、スタイルも乗り心地もお気に入り

佐野幸恵さん、翔平さん（韮崎市）



担当者手塚さんと

「車選びはパッとみた時の印象ですね。このbBも顔が気に入ってすぐに決めました」と話す韮崎市の佐野幸恵さんは、トヨタ車とお付き合いを始めてもう10年以上。「車のことは全然分からないんですが、電話1本ですぐに対応してくれるネット甲斐はとても頼りになります」と営業さんの細やかな対応も気に入り、トヨタの車を乗り継いでいます。

現在乗ってらっしゃるbBは、2年前に旧スタイルから乗り換える形で選んだお気に入り。ネット甲斐ではbBをはじめ、ヴォクシーやオーリス、ウィッシュなどさまざまな車種でオリジナルグリルを発売していて、bBでは3種類のグリルを展開。その中からGシリーズを選んだ佐野さんは、「ちょっと丸みがあって、重たい感じがするこの顔が好きですね。ノーマルとはガラリと印象が変わって、パッと見て決めてしまいました」といいます。

現在は通勤や買い物の足として大活躍していますが、実は最近まで神奈川県で1人暮らしをしている大学生の息子さんのもとにあったそうで、「乗り心地や使い勝手のよさは僕の方が詳しいですよ」と翔平さん。

「旧スタイルのbBより音もすごく静かで、乗り換えた当初はエンジンがかかっているか分からないくらいでした。内装

も僕らの世代向けで格好よく、何と言っても音響がいいですね。重低音がすごく響く感じで気に入っています。山梨までの距離もラクに乗れて快適です」と教えてくれました。

今年の夏には初の自分専用の車としてサーフを手に入れた翔平さん。「大きい4WDがほしくて営業さんに相談して決めました。担当の営業さんとは年齢が近いこともあり、気軽に何でも話せます。大学ではみんなでワイワイ出掛けることも多く、これからはサーフが大活躍してくれそうです。今年の

冬はこの車でスノボに行きたいですね」と今から楽しみにしているようです。

長期休暇の際など実家に戻ってきている時は、幸恵さんの買い物の運転手を買ってでてくれるという翔平さん。「私の運転が不安なんでしょうね」と幸恵さんは言いますが、お母さん思いのとても優しい息子さんです。これからは翔平さんの愛車サーフに乗って親子でちょっと遠出してみる、なんていうのも楽しそうですね。



佐野さん親子と愛犬



# 非日常的なくつろぎをもたらす家

小林 弘和さん宅（甲府市）



シンプルな色合いが全体を統一しているリビング

甲府市中央の大通り沿いに建つ小林邸は、家業である不二衣裳さんの結婚式場案内業務部門「プロログ」の店舗を併設している真っ白な「シンセ・カーダ」。大通りに面した側はショーウィンドウを華やかなウェディングドレスとタキシードが飾る店舗に、その奥にご夫妻のこだわりと思いが詰まった自宅が広がっています。

「なかなか旅行には出掛けられないので、その分ゆっくりとくつろげる家がいいなと思い、非日常的なくつろぎ感のある住まいをお願いしました」というご夫妻。奥様は以前からインテリア雑誌を見ては「こんな空間にしたいな」といろいろな思いを巡らせていたそうで、「やりたいことがたくさんあって悩んだんですが、コーディネーターさんのアドバイスもあって部屋ごとに異なるテイストにしてみました。理想どおりのとてもくつろげる住まいができました」と満足そうにほほ笑みます。

全体的に白と濃いブラウンでまとめられた2階の居住スペースは、インテリアや建具などで空間ごとにアレンジされています。カーテンやラグ、ファブリック類で色を加えたリビングは、北欧の雰囲気漂うシンプルモダン。和室は丸窓や格子の引き戸、蓮の花をデザインした照明などを取り入れてアジアンスタイルに、洗面や黒いバスタブが印象的な浴室、信楽焼きのシンプルな手洗い鉢のあるトイレは、ホテルのような空間に仕上がっています。

「手ぬぐいが好きで集めているんですが、それを飾るために和室には専用の床の間もつくってもらいました。手ぬぐいは季節感あふれるものも多く、60枚以上ある中から季節や行事にあったものを選んで月に1度は換えて楽しんでいます」と奥様。和室は中でも一番気に入っている部屋だそうで、味わいある障子をはめ込んだ丸窓や中国風のサイドボードな

どからも、奥様のこだわりが感じられます。

一方、ご主人がこだわったのが、1階にあるシアタールーム。150インチのスクリーンで迫力の映像が楽しめる空間は、日常から切り離された特別な場所として、あえて無機質なインテリアに。「家内と2人で映画を楽しんだり、1人でゲームをしたり、ホッとするひとときをもたらしてくれる場所です」と夢だったというシアタールームを満喫しています。

施工前には工場見学もしたというお2人。「実際に工場を見せてもらったことで、地震に強いしっかりした構造などについてさらに納得でき、安心してお世話になりました」とご主人。奥様も「現場でもとても臨機応変に対応してくださって、思い描いていたとおりにしてもらうことができ、家づくりそのものも楽しめました」と大満足な様子です。

休日にはお友達も集い、普段とはまた違う楽しい時間が流れる小林邸。くつろぎと楽しさをもたらしてくれる、まさに理想の住まいを手に入れたようです。



ご主人自慢の一部屋、シアタールーム



リゾートな雰囲気漂わす和室



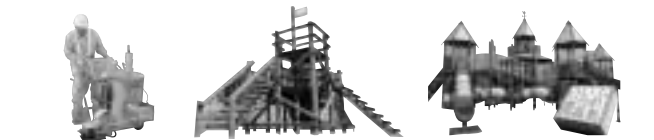
営業担当石川さん、現場担当清水さんと



INFORMATION

安心・安全で快適な暮らしを支える  
株式会社 ロード

ホームページ開設しました



道路標識・遊具・太陽光発電システムなど事業内容を紹介しています。  
詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.ro-ad.jp/>

(株)ロード 本社：甲府市下小河原町262番地  
TEL055-241-6161 (代) FAX055-241-6118 e-mail uproad@pluto.plala.or.jp

家づくり公開ゼミ  
県内2ヶ所同時開催!!

10/10(土)・11(日) 10:00~17:00

県内第1棟目  
完成 **見学会**  
SINCE HUGMI



甲府市西下条

県内第1棟目  
建設中 **見学会**  
SINCE SOREST



笛吹市石和町

詳しくはお問い合わせください。

トヨタホーム山梨(株) 本社：中巨摩郡昭和町河西1043  
TEL055-275-1234 FAX055-275-7806 <http://yna-toyotahome.com/>

国土交通省等から6現場が表彰

早野組は、平成20年度工事において、国土交通省等から以下の現場が表彰を受けました。詳細は当社ホームページに掲載しておりますのでご覧下さい。

表彰名：国土交通省 関東地方整備局 優良工事表彰(局長表彰)  
工事名：御池ノ沢第2床固工事  
発注者：国土交通省 富士川砂防事務所

表彰名：国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所 優良工事表彰(事務所長表彰)  
工事名：波木井防災工事  
発注者：国土交通省 甲府河川国道事務所

表彰名：国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所 優良工事表彰(事務所長表彰)  
工事名：上岩崎・原交差点他改良工事  
発注者：国土交通省 甲府河川国道事務所

表彰名：甲府市優良建設工事表彰  
工事名：濁川東二号幹線下水道管布設工事(第1工区)  
発注者：甲府市上下水道局

表彰名：南アルプス市優良建設業者表彰  
工事名：南アルプス市健康福祉センター(仮称)建設工事  
発注者：南アルプス市

表彰名：中日本高速道路(株) 感謝状  
工事名：大月ICのり面災害復旧工事  
発注者：中日本高速道路(株) 八王子支社

(株)早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10  
TEL055-235-1111 <http://www.hayano.co.jp>

トラック輸送じゃなきゃ、  
出来ない仕事があります!



わが社では、トヨタホーム様のユニット輸送をさせて頂いております。シートの下はお客様の商品なので、細心の注意を払い運んでいます。  
北は宮城県、南は福岡県までの範囲で輸送しています。また輸送車両には“デジタルタコグラフ”を装着し、環境にやさしい運転を心がけています。

甲府通運(株)  
本社：中央市山之神流通団地3329-9 TEL055-273-0611

INFORMATION

ヘルパーさん大募集!



時 給

1,000~1,600円  
サービス・時間帯に  
応じて決まります。

資 格

ヘルパー2級以上  
あとは、あなたの  
笑顔があればOK!

安 心

初めての方でも  
だいじょうぶ!!  
先輩ヘルパーが同行指導。

○初めに働ける曜日や時間をお知らせ下さい。あなたのペースで仕事ををお願いします。  
○資格は無いけど働きたい!!そんな意欲のある方は、まずは当社提携先のヘルパースクールで資格取得!!奨学金制度もあります

(株)やさしい手甲府 本部：甲府市上石田1-7-14 TEL.055-236-6210 <http://www.yasashiite-kofu.co.jp>

医療・福祉のお仕事は  
就職・転職専門サイト

携帯で検索



ハートフルスタッフ

検索

<http://www.hf-staff.jp/>

勤務先多数

山梨はもちろん東京・神奈川・埼玉・千葉方面のお仕事もあります。

今すぐ働けない方は・・・

『ハートフルスタッフ会員』登録受付中!! (お仕事情報をご案内します)



～医療・福祉の総合人材コンサルティング～

株式会社 ハートフルスタッフ

一般労働者派遣事業許可 般19-010014 有料職業紹介事業許可 19-ユ-010029

0120-063-224

支店：甲府・八王子・横浜青葉・新宿HRC(人材研究センター)

(株)ハートフルスタッフ甲府支店 山梨県甲府市上石田1-8-20 TEL.055-236-0123 <http://www.hf-staff.jp/>

期間限定 ナルホド納得!「エコカーの補助金&減税」早わかり講座

エコカーの補助金

Q どうすればもらえるの?

A 基準を満たした新車を買ったと交付されます。  
期間限定のうえ、予算がなくなると終了しちゃいますよ!

平成21年4月10日～平成22年3月31日までの1年限り  
(補助金予算がなくなりしだい終了になります)。

エコカーの補助金

「平成17年基準排出ガス75%低減」+  
「平成22年度燃費基準+15%以上」の  
新車を購入する場合

新車 補助金10万円 (軽自動車は5万円)

廃車を伴うエコカーの補助金

新車登録から13年以上経つ車を廃車(スクラップ)し、  
新車(平成22年度燃費基準達成車)  
へ買い替える場合

新車 補助金25万円 (軽自動車は12.5万円)

エコカーの減税

Q どんなクルマが対象で、どのくらい軽減されるの?

A 下記のマークのついているクルマが対象となり、マークによって減税額が異なります。

平成21年4月～平成24年4月までの新規登録車を対象。

※自動車所得税は平成24年3月まで

ハイブリッド車 排ガス規制▲75% 燃費基準+25% 100%減税

乗用車 排ガス規制▲75% 燃費基準+25% 75%減税

排ガス規制▲75% 燃費基準+15%または燃費基準+20% 50%減税

ネットトヨタ甲斐(株) 本社：甲府市朝氣3丁目10-21 TEL055-232-5511



## 山梨ダイハツ販売株式会社 竜王店



カフェのように心地いいショールームで  
自分にぴったりのエコカーを探せる



リニューアルした店舗

「カクカクシカジカ…」やウェンツ君の起用で印象的なCMが多いダイハツ。低燃費でおしゃれなエコカーを豊富にラインナップするそのお店が、この夏、国道20号沿いにリニューアルオープンした。店先の特設ステージに一堂に並んだ車は、車道からも目を引く。ショールームに入れば、天井が高く開放感がある空間に、大きな窓から明るい光が差し込み、奥の方ではガラス越しに整備の様子が伺える。

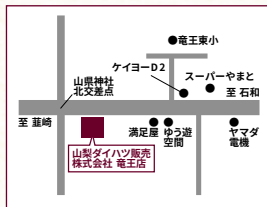
子ども連れのお客様に安心なキッズコーナーをはじめ、ネイルコーナーやドリンクコーナー、雑誌コーナーなど待ち時間を楽しく過ごしていただくための工夫がいっぱいだ。

「子どものお客様は女性が7割。お店のコーデイングも女性の目線を第一に考えました」と話すのは、営業歴31年の工藤店長。『目配り、気配り、心配り』を合言葉にスタッフ16名を統率する。室温をお客様の様子で調節したり、ドリンクにスイーツを添えたり、納車の際に写真を撮ったりと、サービスに余念がない。「ただ商品説明して売だけの販売ではなく、お客様のニーズをよく聞き出し、その方の生活スタイルに合わせた車をご提案できてこそ、本物の営業」と熱っぽく語る。

新しく出たMira Cocoaも色や形といい、何とも魅力的。今ならお得なエコカー減税も見逃せない。おしゃれで使い勝手のよい車が揃う山梨ダイハツに気軽に試乗してみたい。



工藤店長



**所在地** 山梨県甲斐市富竹新田1532  
**TEL** 055-276-9811  
**FAX** 055-276-9812  
**営業時間** 9:00～  
**定休日** 火曜日  
**URL** <http://dd.daihatu.co.jp/yamanashi/>

## 山梨農芸社 ばらのてらす Café Rococo

バラを眺めながら美味なる一杯  
秘密にしておきたい街中のオアシス



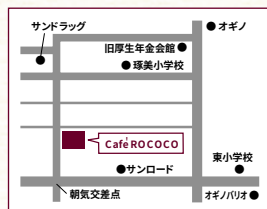
バラ好きで有名な山梨農芸社のオーナーが始めたカフェ。もともと倉庫だった場所へ昨年夏からスタッフがバラを植え、見事なバラ園を築き上げた。店名にもなったロココは、淡いピンクの優美で繊細な花姿が特徴のつるバラ。他にも合わせて100種類200本が植えられており、5～6月が最も見頃となる。トレリスをめぐる園内には迷路のように歩道が設けられ、心ゆくまで散策を楽しめる。さりげなく配されたバーゴラやブランコも絵になる風景だ。

白とダークブラウンを基調にした店内はシックで落ち着いた雰囲気。珈琲、紅茶ともに(400円～)本格的な味が楽しめる。日替わりカレーやパヴェッティ、ケーキ(テイクアウト可)等もあり。全てスタッフの手作りだ。「ケーキを焼いているときが一番幸せ」と話す米長さんは、「本当に美味しいコーヒーをお出ししたい」という願いから、豆ドリッブ式にこだわっている。中でも「コクがありさっぱりした浅煎りがおすすめ」だそう。街中の喧騒を忘れ、ゆったりと優雅なひとときが過ごせるこんなカフェは、あり

そうでなかなか見つからない。中からガラス越しに愛でるのもいいが、バラの香りが漂うテラス席もとびっきり贅沢。お好きなように堪能してほしい。



米長さん



**所在地** 山梨県甲府市朝気1-8-15  
**TEL** 055-233-6552  
**営業時間** 11:00～18:00  
**定休日** 水曜(10～12月まで)  
それ以降、寒期は水・木曜  
**URL** <http://caferococo.web.fc2.com/>

## 山梨県民の地域医療を陰でサポートする 株式会社 ジャパンメディカル

町の健康診断やかかりつけのクリニックで採血した血液は、いったいどこで検査されるのだろう。「結果は次回に」と言われるたび、ふと、そんなことを思ったことはないだろうか。採取した血液などは「検体」と呼ばれ、県の認可を受けた専門の臨床検査機関で精密に検査され、再び医療機関に結果が報告される。尿や便、臓器もしかり。私たち山梨県民の医療を陰でサポートしてくれているのが、この株式会社ジャパンメディカルだ。

民間ならではのサービス精神と  
地の利を活かして

もともとは昭和46年に(株)京浜予防医学研究所の山梨支所として開設され、地元の会社を合併するなどして昭和61年に(株)ジャパンメディカルとして誕生した。取引先は山梨県の医療機関320カ所、市町村施設及び事業所1600カ所。毎朝、検体を県内各地に回収しに出かける専門の部隊がいる。また、24時間体制なので連絡があれば、深夜でも引き受ける体制を整えている。

年間72万本の血液検査を行うが、中には0-157やエイズ菌、結核菌など、何があるか分からない。便の検査も実際に陽性を発見する率は1万人に1人くらいなので地道な作業の繰り返しだ。それでも、地域医療を支えているという強い信念があるからこそ、この仕事を続けている。

最新の機器を導入した新社屋で  
作業効率も大幅アップ

今年5月にビジネスパークへ移るまでは甲府で業務を行っていた。しかし前の建物は如何せん、狭すぎた。「つぎ足つぎ足の古い建物で、作業している人の後ろを通るのに身を狭めてようやく通るような状態でした。」と森久保専務は当時を振り返る。書類や検体を保管する場所、検査機器を置く場所、とにかくスペースを確保したいと、実は6年前に一度、移転計画を出していた。が当時、政府の構造改革で医療費の大幅抑制がなされ、怪しい雲行きが予測できたことからストップがかかっていたのだ。

案の定、売上げはこの5、6年で1億何千万と減った。だが、大手銀行出身の森久保専務が手腕を発揮した資金繰りや地価の下落などがうまくマッチングし、時を経て計画を実現させることができたのだ。

3倍に広がった新社屋は、平屋建てで作業効率もアップ。最新機器の導入が、さらにスピード化をもたらした。「社員が生き生きしてきたのが手を取るようになるんです。やはり働く環境というのは重要ですね。」と専務は感慨深げに話す。



血液分析装置

人の命を守るという使命を胸に  
地域医療に貢献し続けたい

関係各所に移転のお知らせはしたが、大々的に落成式を行わず、マスコミに掲載するのも断った。医療業界が疲弊している中、ウチばかり派手な宣伝をするわけにいかない。自分たちは縁の下の方の力持ちというスタンスを崩したくなかったからだ。

「今後、この業界はますます重要任務を背負っていくと思います。今までは厳しい価格競争がありましたが、高齢化がさらに進み、活躍の場が増えることは確か。でも、ビジネスを拡大する気はないんです。地元ならではの利便性を最大限活かし、迅速かつ正確な検査を行っていく。安定的に発展していくためにも、お医者さんから信頼される存在であり続けたいと考えています。」専務の噛みしめるような言葉が心に残った。



●株式会社 ジャパンメディカル●

昭和61年9月設立。  
山梨県全域の臨床検査受託業務を主に行う。従業員は43名。  
平成21年5月に中央市の山梨ビジネスパークに新築移転した。  
京浜メディカルグループに属す。  
〒409-3812 山梨県中央市乙黒354-11  
TEL 055-220-4155  
URL <http://www.jp-m.co.jp/>



森久保専務



にしごおり じ  
西郡路

## 駿河と信濃を結ぶ中継街道

西郡路は江戸時代には脇往還である駿信往還の一部であった。河内路から西郡路を経て信州への道は、葦崎宿に至って二分され、一つは佐久往還を信州佐久郡へ、他は甲州道中によって信州諏訪郡へと結んでいる。現在の国道52号線の元道である。青柳追分・長沢村・荊沢宿・三輪社の傍・小笠原村・八田庄・余戸郷・葦崎宿という経路になる。

青柳追分は駿州往還と西郡路の分岐点であり、西郡路をベースに国道52号がある。分岐より1.3キロメートルほどで利根川に至る。橋はなく、対岸は公園となっており、その先に西郡路が見える。公園から150メートルほどで国道と合するが、この間は古道の景観を残している。

しばらく進むと荊沢宿に入る。西郡路は現在より下流で坪川を渡り、土手際から約90メートルの所で西に直角に曲がり、20メートルほどで北に曲がって宿に入った。これが荊沢宿下の「炬の手」である。

荊沢宿の成立は、西郡の発達により北大師村＝古市場に市がたてられ、次いで街道に続く南にさらに市が発展した。これを今市といい、従来からの市は古市場と呼ばれた。近世に入り宿駅が設置されたとき、この今市が宿となり荊沢宿が成立した。駿信往還の宿駅として、特に富士川水運の河岸鰍沢宿と甲州道中葦崎宿との間に位置することから、人馬の通行はかなりの賑わいを示していたことがうかがえる。

〔文・写真 若林 賢明〕



道標のある青柳追分  
(左の葦崎・諏訪方面に向く西郡道と右の甲府方面に向く道はここで別れる)



昔栄えた荊沢宿の中ほどにある  
“炬の手”道路



葦崎宿の船山橋近くにある、“鰍沢横町”  
(右の道路で、左は国道)

## 某月某日 癌でした！

×月×日

私事で恐縮ながら、8月の健診で腎細胞癌(腎臓癌)である事が判明した。弟も大腸癌の手術をしているので、そろそろ健診をしなくてはと、生まれて初めて受けた人間ドックで見つかったものである。ここ数日間は、その事に追われていたが、ある程度落ち着いてきたので、その顛末を書いてみたい。

まずは感情(感覚)の問題である。そのような場合の人間の感情は「驚き」=>「悲しみ」=>「怒り」=>「諦め(平静)」というプロセスを経るといわれている。わたしも少なからずそんなものだったが、もう一つ自分の中で変わったものがある。

時間の流れが違ってきているのである。毎日が長いとか、短いとか言ったレベルの問題ではない。体内時計のネジが、急に「ギュー」と巻かれたような変な感じである。「49歳にもなって…」と情けない感じもするが、考えてもいなかった現実が急に目の前に現れて以降、時間の質が明らかに違う。数日で20歳くらいの年齢を経ってしまったようなというのが近い感覚かもしれない。

次は周囲の問題である。家族はもちろんのこと、感謝するべきは友人である。長く無沙汰を続けてきた大学時代の友人も、色々優しくしてくれ

〔杉村 聡〕

た。自分と利害関係の全くない沢山の人達が元気付けてくれることは、本当にうれしかった。

次に医療(病院)についてである。以前弟が手術したこともあり、癌という病気に対する知識は、ある程度の蓄積があった。どの病院が有名なか?など大体の事はわかっていた。ということで、CTの写真を持って病院巡りが始まった。なるべく多くの専門医の意見を聞きたいというのがあったからである。やはり病院および医師によって随分違う。「大丈夫」を前面に出す、肯定的な病院、「楽観は出来ませんが…」という慎重な病院、病院や医師によって受け取る情報は様々で、そのたびに一喜一憂した。結局最後は、先輩の紹介の病院に決定したが、どの病院を選んでも結局のところ不安は消えなかっただろう。

会社を経営している義父が、「自分がベストと思う選択をしたら後悔してもしょうがない。会社の危ないときでも人事を尽くしたら天命を待つのみ!」と言っていた。妻に対して申し訳ないという気持ちもあったので救われた思いがした。

次回が書けたら入院・手術のことを書きたいが、どうなっているやら?それでも読者の方には、35歳を過ぎたら健診で自分の体を詳しく調べる事を強くお勧めしたい。私の場合、自覚症状ゼロ10万人に7人という稀な癌で、自覚症状が出ていたらあぶなかった。というか、あと1年健診が遅かったら手遅れの可能性が高かった。逆に、もしも5年前に健診で見つけていたら、腎臓摘出というような大事には至らなかったと言える。



## 独灯 (どくとう)

昼、太陽電池で発電する  
夜、あたたかな灯りがひろがる  
今、日本の灯りに新しい提案

ソーラーエネルギーライティングユニット



(株)風憩セコロ/ソーラーエネルギーライティングユニット  
H170×W150 アルミ鋳物□150  
砲弾型ローソク色LED16球  
連続点灯/ポタル点灯/ゆらぎ点灯



交通安全施設・公園環境施設・太陽光発電システム

株式会社 ロード

甲府市下小河原町262 055-241-6161 <http://www.ro-ad.jp>